

後ろ結び

本作品は映画『すずめの戸締まり』の二次創作です。

冬の朝は結構好きだ。

まあ、宮崎^{ここ}の冬は寒いといつても知れたもので、今朝もTVの天気予報を見ながら、東京はこっちよりずいぶん寒いんだな、草太^{そうた}さん大丈夫かな、なんて思ったりもしたけど、でもそんな温暖な私の町でもこの季節の朝の空気は凜としていて、受験生としてもちよっぴり身が引き締まる。

玄関先で靴を履きながら、制服の上にマフラーをぐるぐるっと巻いて、首の後ろできゅつと結ぶ。

高二の頃とか、絢^{あや}たちといろんな巻き方を試してみたりもしたんだけど、結局はこの巻き方に戻ってきちゃうんだよね。

* * *

——すずめ、ほうら。おいで。

かすかに思い出す、遠い遠い昔の声。

——今日はしはれるから、ちゃあんとマフラーするべ。ね。

そう言いながらお母さんはいつもちよつとしゃがみ込んで、私にマフラーをぐるぐるつと巻いて、首の後ろできゅつと結んでくれた。私の大好きな黄色。これを巻くともこもこになって、どんなに寒い日でも無敵になった気がした。

* * *

あの日のことはよく覚えていない。ただ、すごくゆきがふってきて、はやくおかあさんをさがしにいかなきゃって思っ、いつもみたいにマフラーをくびのうしろでむすぼうと

したけど、どうしてもおかあさんみたいにうまくむすべなくて、へんなむすびかたになっちゃったのは覚えてる。いつもはどんなすごいゆきのひでもへっちゃらだったのに、なんかきょうはそとにでるのがこわい。むすびかたがいつもとちがうからなのかな。

* * *

ずっと忘れてたけど、今ならば、わかる。あの日、お母さんみたいに私にマフラーをぐるぐるっと巻いて、首の後ろできゅっと結んでくれた人がいた。そしたらなんだか、ちよつとだけ、こわくなくなっただ。

* * *

だから私は今日もこうやって、ちゃあんとマフラーを巻く。今の私は、後ろ結びなんて秒でできる。何しろもうね、包帯法だって完璧なんだよ。ピンクのマフラーをぐるぐると巻いて、首の後ろできゅっと結ぶと、やっぱり無敵になった気がする。将来が不安になる夜もあるけど、毎朝この儀式をすると、なんだか、未来なんて怖くないって思えてくる。

この瞬間が好きだから、冬の朝が好きなんだ。

「行ってきますす！」

玄関のドアを開ける。冷たい空気が頬を刺すけど、きゅつと結んだマフラーがあればへっちゃらだ。裏庭のスズメのさえずりに交じって遠くの漁港の喧噪がこの高台にもかすかに届いて、なんていうか、今日も世界が動き出してるって感じがする。リュックに詰めた環たまきさんのお弁当も、あと何回食べれるかなって思うと、最近ちよつとね、いとおしいんだ。

サドルにまたがって、ぐいっとペダルを漕ぎ出す。そのまま加速する。カーブを曲がると視界が一気に開けて、キラキラした海の青が一面に広がる。首の後ろでマフラーが潮風にはためいてるのがわかる。自転車は無敵の私を乗せて、見事な冬晴れの坂道を走り続けてゆく。光の中をずっとずっと、もっと先まで。私、きつと行けるよね？

後ろ結び

a

二〇二三年五月八日 初版発行

二〇二四年一〇月二七日 修正版発行

発行者 a

印刷所 viviostyle

Twitter @a23324094

<https://www.pixiv.net/users/59321047>

© a 2023

本作品は非公式の二次創作作品です。

本作品の無断改変および営利目的での複製・転載を禁じます。